

滋賀・北萱遺跡 きたかや

- 1 所在地 滋賀県草津市矢橋町
- 2 調査期間 一九八四年(昭59) 四月～一九八六年三月
- 3 発掘機関 滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会
- 4 調査担当者 三宅 弘
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代前期～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(京都東北部)

北萱遺跡は、草津市の西南部に位置し、北川の下流域にあたる。

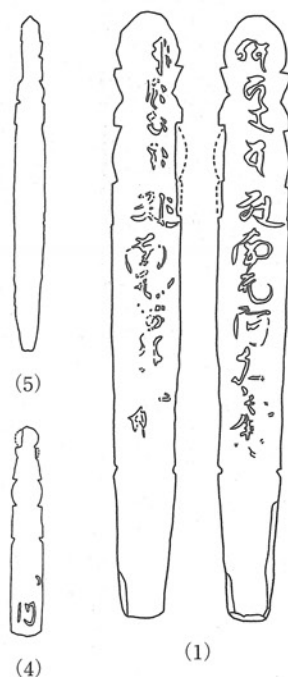
草津市内の河川は、その源流部分に花崗岩の風化した脆弱な土壌をもつ金勝山地などの山々を控えているため、古来大雨の後の氾濫に悩まされ続けてきた。その結果として河川天井川化が促進され、周辺の平地は排水状況の著しく悪い土地になった。このため天井川の平地河川化が計画され、それに伴う発

掘調査が実施されることになった。試掘調査の結果に基づき、主要地方道彦根―近江八幡―大津線(通称浜街道)の西側において、北川より北をA地区、南をB地区として、発掘調査が行なわれた。

A地区では東端で検出された平安時代の溝と、東方に広がる遺物包含層の範囲を、B地区では本川部分の東側全域を対象として調査が実施された。多量の遺物が出土しているが、ほとんどは包含層からの出土である。時期は縄文時代前期から江戸時代まで幅広いが、その中心は古墳時代前期と平安時代末から鎌倉時代にかけてである。包含層出土の遺物は、土器を始めとして、木器・金属器・石器・土製器・古銭と幅広い。七点の木簡も全てこの包含層より出土した。

8 木簡の釈文・内容

- (1) 〔キヤカラバエ〕
・ 阿彌陀仏南无阿弥陀仏
・ 阿彌陀仏南无阿弥陀仏
530×59×5.5 061
- (2) 〔ア〕
・ 南无阿弥陀仏
414×85×5 061
- (3) 〔ア〕
602×52×5.5 061
- (4) 〔ア〕
184×26×2 061
- (5) 〔ア〕
290×23×3.1 061



- (6) 〔住カ〕
□最後身聞法得果是□藥草各得増□〔長カ〕

〔万カ〕諸仏世尊供養恭敬尊重讚歎広宣諸カ
□億□□□□□□□□□□□□□□□□

(213) × 13 × 0.8 081

- (7) 〔汝カ〕
□等而現其相時多宝仏告彼菩薩

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

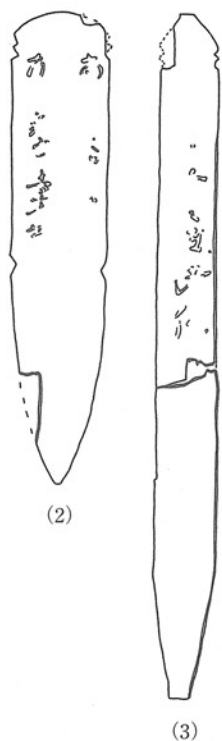
(150) × 15 × 0.8 081

- (8) 来文殊□利法王子欲見汝□于時

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

(155) × (11) × 0.8 081

(1)~(5)は卒塔婆である。(1)は五輪塔形に作られた上部に、細長い長方形の下部が付く。下端は平らに整形され、下から約一二cmの部分の側面に切り欠きが一対みられる。(4)も(1)と同様の形態を呈する小型の板塔婆(笹塔婆)である。(5)はほぼ完形品で、五輪塔形の上



部に中彫れの長い下部が付く。但し、頂部は円形ではなく、上端が山形を呈する方形である。表面の上半に文字が認められるが、墨そのものは既に消失し、文字部分が白く浮き出た状態で残る。(2)(3)は頂部を山形に作り、その下に左右から二回ずつ切り欠きを入れている。(2)は下から約二分の一の位置にも切り欠きを一対入れている。また、経文は二行にわたって書かれているようだが、解読不能。これらは鎌倉時代から室町時代にかけての卒塔婆であろう。

(6)~(8)は柿経である。(6)は『法華経』巻第二葉草喻品第五と授記品第六の一節を表裏に記す。(6)の次に六本の柿経があり、表裏に書き継いだものと想定できる。(7)(8)は、『法華経』巻第六妙音菩薩品第二十四のほぼ連続する(三文字分を欠く)一節を記す。裏面にも書写されているが判読できない。いずれも室町時代のものであろう。

9 関係文献

滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会『北萱遺跡発掘調査報告書』(一九九四年)

(大橋信弥(安土城考古博物館))